

テレビや新聞・書籍をみて赤ちゃんとミルクの絵が目に入ってきた。

あたかも赤ちゃんはミルクで育てるものか……若く母親となる人たちに錯覚を起させます。事実猫もしゃくしゃくも、すべてミルクまかせのママが多いのです。使わないものは退化するの原則からいけば、お乳のない女性が生まれるのではなからうか……

望ましい母乳



- ◇ 母乳と人工栄養の問題についてはいろいろあるかと思いますが、まずご自分の経験から、
- ▽ 母乳がどれだけの量に育ったのか知らずに、ただ、すぐに間に合うということから母乳で育ててきました。
- ▽ 産後の休暇中は母乳で育て、勤めに出はじめて昼間はミルクにしました。
- ▽ 母乳が足りず人工栄養との混合でしたが、できる限り母乳を飲まずに努力しました。
- ▽ 最初のこともは難産で乳がなくて、ミルクで育てましたが、一年ぐらいいは背便で病気が勝ち……

あとの二人は母乳で病気一つせず育ちました。母乳が望ましいと思います。

◇ 戦時中や終戦直後は母子とも栄養失調で苦労しましたが、若いお母さん方はどうですか、

▽ 病院で出産後二日間もミルクで、その後は母乳で育てていました。一か月の検診では体重が足りなかったが、いまは標準より大きくなりました。

▽ 五か月までは母乳でその後は混合栄養です。順調に成長し標準ぐらいい……

◇ 最初の一月はミルクと混合でしたが、ミルクを嫌うので、二か月目から母乳のみになりました。発育は標準程度です。

不足分はミルクで

◇ ここにお出でのみなさんは母乳で育てられた方ばかりですが、

語る人

母親 久保 久美(里改田) 神田 純子(片山) 井上美耶子(大浦)

保健婦 沢田 美鶴(三和、前浜) 池上 和(日章、岩)

島本せつ子(長岡) 樋口 啓子(久礼田、瓶岩、国府)

民生委員 山本 美重(久枝) 山本 峰子(左右山)



神田純子さん



井上美耶子さん

どのよう感じていますか……母乳とミルクではかなり成長に差があるようです。ミルクだとボチャボチャと太り母乳より見た目は大きくなるようですが、それは外見的なことでも中身は少ないです……母乳の方が堅太りで良いと思っています。

▽ 母乳だと安心ができていなくても間に合います。もともと牛乳は牛を育てるためのもの、人間の子どもは母乳でなければ(笑い)……

母乳がありながら初めからミ



母乳の長所

過労は禁物

◇ 母乳の利点とか長所といったものは……



ルクに頼りすぎるとは、ぜひ三か月までは母乳を飲ましてほしいものです。母乳で育てるのが自然の姿で当然母乳で育てなければならぬのに、ミルクがそれにとつて変った格好……、隣りがミルクで太ったといえればそれはミルクでという風潮がありますね、母乳で足りない分をミルクで補うということが一番よいのでは……

▽ 三か月までは母乳だけで十分足ります。しかも清潔である。手間がはぶける。病気にに対する免疫がある。経済的である。消化がよい。愛情が深くなる。などの利点や長所があります。

▽ 赤ちゃんの病気を母乳とミルクで比較すると、母乳を一つとすれば人工栄養の場合三倍で、死亡についても一と二の割り合いで人工栄養の方が多く、とくに伝染性の病気に對して母乳の方が強いようです。

◇ お乳を飲まずとお乳の線がくずれ、容姿が悪くなるとか……

赤ちゃんに あなたのお乳を

母乳で育てる母親運動



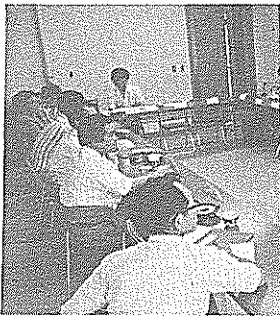
増えてきた母乳

過ぎたミルクのPR



◇ この頃、母乳を飲まず母親が増えているとか……

▽ 共かせぎのお母さんは、母乳



◇ 人工栄養の方で、勤めの関係上止むを得ないお母さんを除いて、お乳の格好が悪くなるという人が三十八割もいます。また人工栄養が発育によろしいという人が三十二割もいます。母乳を飲まずと形がくずれ、若さが保てないという心配はありません。四一五カ月ごろから離乳に入り、八カ月から十カ月にかけて完全に離乳することで防ぐことができます。母乳を飲まずはお母さんの方が、かえって美しいお乳をしています。離乳の時期が大切ですね。

▽ 栄養と休養が大切です。平常の五十割の栄養をプラスすることと、過労をなくし睡眠をとれば防ぐことができます。今のお母さんは母乳を飲まずことよって、かえって美容にプラスしているようです。

◇ 人工栄養の方で、勤めの関係上止むを得ないお母さんを除いて、お乳の格好が悪くなるという人が三十八割もいます。また人工栄養が発育によろしいという人が三十二割もいます。母乳を飲まずと形がくずれ、若さが保てないという心配はありません。四一五カ月ごろから離乳に入り、八カ月から十カ月にかけて完全に離乳することで防ぐことができます。母乳を飲まずはお母さんの方が、かえって美しいお乳をしています。離乳の時期が大切ですね。

で育てたくてもミルクでなければならぬ方もありますが、勤め先に託児所があったり、授乳の時間を十分与えられていても母乳でなく、人工栄養のお母さんが多く残念に思っています。

◇ これまでは出産前からミルクで育てて決めていたお母さんが多く、最近では母乳で育てたいという相談が増えてきています。

▽ 四十九年から五十年までのM地区の赤ちゃんを対象に調査した結果、母乳が十六割、母乳と人工の混合が十六割、ミルクが三十八割と人工栄養が全体の七割を占め、そのうちの三分の二は家庭に母親がいながらミルクを飲ませているのに驚きました。

◇ 私の担当地区では五十七人のうち二十五人が母乳かそれに添加しており、母乳に関心をもち始めているようです。

▽ 赤ちゃんはミルクでというわけではないだろうが、育児書

大切な

お乳の手入れ



表紙などはミルクを飲ましている写真ばかり、ミルクのPRがすぎるのでは……(笑い)

◇ 母乳を飲まずためには、お乳の手入れと母親の努力が必要と云われていますが……

▽ お乳を出すためにはそれだけの努力が必要で、お乳を飲んで大きくなることも大切ですが(もみすきると流産の恐れがある)

◇ 母乳は吸うと出るものです。しかし手入れが足りないためにせつ々しく出るお乳をよみ出さず、結局ミルクに頼らざるを得なかったお母さんもいます。また、精神的な負担によつて出なくなる場合もあります。妊娠中や出産後は母親の心に負担を掛けないことも大事です。

◇ 母親の九十七割は母乳が出ます。母親が努力することによつてよほどのことがない限り出るものです。また、飲ました後はかならず乳房をからにしておくことが大切。中途半端にすると母乳が出なくなります。

医師の協力も

◇ 母乳で育てる母親運動はどのように取り組んでいますか。

▽ 六年前からで初めは子供を丈夫に育てる運動といっていました。丈夫な子供は母乳からということから、母乳で育てる母親運動となりました。

▽ 母乳で愛情濃やかに育てれば子供が丈夫にしかも健全な精神が宿り、将来、立派な人間に成長し、社会を明るくするのはという願いも一めて、婦人生委員が中心となって、全国的に運動しています。

◇ 母乳を飲まず指導は保健婦も力を入れていますが、医師の協力が一番大切だと思えます。医療機関への協力要請もこの運動を推進する一つのかぎだと思えます。



久保久美さん

広報座談会

丈夫な子どもを育てるために